

家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204
 香 川 県 東 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558
 香 川 県 西 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

令和4年度高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況と 令和5年度シーズンの早期対策について

令和4年度 HPAI の発生状況は、過去最速の10月28日に国内1例目(岡山県倉敷市)が確認されて以来、26道県84事例発生し、過去最大の約1,771万羽が殺処分されました。本県でも11月1日に県内1例目を確認され、12月11日までに4事例発生、疫学関連農場を含めて約19万羽が殺処分されました。令和2年度シーズンと比較すると、野鳥の初発確認日は、10月24日(R2)から9月25日(R4)と約1ヶ月早まり、家きんの発生も11月5日(R2)から10月28日(R4)に早まっています。以上のことから、今シーズンも野鳥の飛来する9月までに改めて飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。特に下記の対策について徹底するようお願いします。

- 1) 鶏舎に出入りする者に、適切に消毒や長靴交換ができていないか確認すること。
- 2) 農場内に出入りする車両の消毒をすること。
- 3) 農場敷地内や鶏舎周囲の消毒を毎日行うこと。
- 4) 野生動物が農場内に近づかないよう鶏舎周辺の整理整頓、草刈りの実施。
- 5) 入気口、鶏舎天井裏など普段目が届きにくい場所についても穴等がないか点検し補修を行うこと。
- 6) 農場周辺のため池等の水場は、関係者の理解のもと、水を抜くか、防鳥ネットや忌避テープを張る等の対応を実施し、野鳥を近付けないようにすること。

家畜伝染病・伝染性疾病発生状況

疾 病 名	畜種	発 生 場 所	発生時期	発生戸数	発生頭羽数
ヨーネ病(法定)	牛	岡山県、島根県	R5.2 ~ R5.3	2	3
ヨーネ病(法定)	山羊	兵庫県	R5.2	1	1
牛伝染性鼻気管炎(届出)	牛	鳥取県	R5.3	1	11
牛伝染性リンパ腫(届出) (旧:牛白血病)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、 島根県、山口県、愛媛県、徳島県、 高知県、香川県	R5.2 ~ R5.4	77	121
豚丹毒(届出)	豚	広島県、鳥取県、島根県、愛媛県、 徳島県、高知県、香川県	R5.2 ~ R5.4	12	36
サルモネラ症(届出)	豚	徳島県	R5.2	1	2
豚流行性下痢(届出)	豚	香川県	R5.2	1	1
鶏白血病(届出)	鶏	香川県	R5.2	1	1
マレック病(届出)	鶏	高知県	R5.3	1	7
ノゼマ症(届出)	蜜蜂	島根県	R5.3	1	1
アカリダニ症(届出)	蜜蜂	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、 島根県、愛媛県	R5.2 ~ R5.4	8	19

銅欠乏症・銅中毒について (牛疾病特殊講習会から)

銅は、動物の生体内で重要な役割を持つ微量ミネラルです。欠乏症では、体調不良、下痢、貧血、歩様異常などの臨床症状が見られ、中毒では、肝機能障害、貧血（レモン色の結膜）、黄疸、血色素尿症などを呈し、重度になると死亡することもあります。

特に、銅中毒は近年、黒毛和種子牛での報告が増加しています。銅中毒は、銅の誤食が主な原因となり胃腸炎を呈する急性中毒と、肝臓に蓄積された銅が許容範囲を超過した時又はストレス等によって血液中に放出されて発症する慢性中毒があります。血液中の銅濃度は発症直前まで上昇せず、発症してからでは治療が困難になることもあり、GGT(γ -GTP)の上昇が銅中毒の目安になります。



【原因】 銅欠乏症：モリブデン等の影響で銅吸収低下、試料の銅含量不足
銅中毒：ペプチド銅含有サプリメントの多給、農薬や硫酸銅等の誤食
ストレス（輸送・天候・妊娠・泌乳・激しい運動・栄養欠乏）

★銅は安全域も狭く、欠乏・中毒のどちらもなりやすいので注意しましょう。

★子牛の発育ステージに合った適正な飼料を与えましょう。



豚熱とアフリカ豚熱について (基本講習会から)

豚熱（CSF）は豚及びイノシシの熱性、敗血症性の疾病で強い伝染力と高い致死率が特徴です。平成30年9月に26年ぶりに日本で発生以降、養豚場で18都県で86例発生しています。本県でも野生イノシシで9頭の遺伝子陽性が確認されており、予断を許さない状況となっています。CSFの30年前の流行株は、発熱、食欲不振、元気消失、起立不能、結膜炎、紫斑等の症状を呈し、大半が死亡していましたが、現在の流行株はこれらの症状が乏しくなっています。このような症状の不明瞭さがCSFの発見の遅れや感染拡大に影響していると考えられます。

アフリカ豚熱（ASF）は豚及びイノシシの熱性伝染病で、強い伝染力と高い致死率が特徴であり、CSFと酷似していますが、有効なワクチンがありません。東アジアで発生していないのは日本及び台湾のみです。ASFウイルスは腐敗した血液中で15週間、糞便中で11日間、非加熱処理のハムやソーセージで3～6か月生存することができます。実際に日本の検疫所では肉製品の摘発がされており、109例の遺伝子陽性が確認されていることから、いつ日本に侵入してもおかしくない状況となっています。今年度から新型コロナウイルスによる人の移動規制が緩和されているため、ASFが侵入するリスクは一層高くなっています。

CSFとASFの農場への侵入を防ぐには、飼養衛生管理基準の遵守が不可欠です。また感染拡大を防ぐためには、早期発見と初動対応が重要です。CSF及びASFの特定症状やいつもと違う様子が見られたら、家畜保健衛生所まで通報をお願いします。



消石灰や逆性石鹼等による消毒について (鶏疾病特殊講習会から)

畜産現場で広く使用されている消石灰は、水に濡れて消毒効果を発揮します。農場敷地内に消石灰を散布することで、水分を含む病原体（ウイルスや細菌）と接触して病原体を消毒することができます。なお、消石灰は雨水に濡れて乾燥すると、消毒効果は低下するので、再散布が必要です。また、逆性石鹼は腐食性が少なく幅広い消毒効果が見込めますが、サーコウイルスやアデノウイルス、口蹄疫ウイルス等への消毒にはあまり効果がありません。ただ、逆性石鹼にアルカリ剤を混合するとこれらのウイルスも含めた幅広い消毒が可能となります。逆性石鹼のアルカリ化には消石灰では相乗効果が十分得られないため、食品添加物規格のマイクロ水酸化カルシウム（¥500/kg程度）を約0.17%の割合で添加するのが最適のことです。

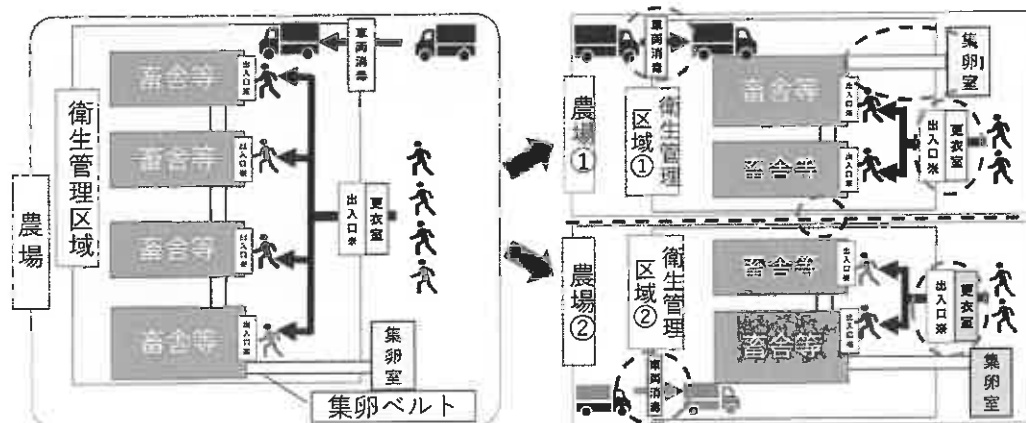
踏込消毒槽では、病原体の消毒に1分以上の浸漬が必要であることから、養鶏場や養豚場では畜舎毎に設置している専用の長靴に履き替えることが飼養衛生管理基準で定められています。この畜舎内長靴は踏込消毒槽に、あらかじめ浸漬しておくこと更に効果的です。また、糞等の有機物が付着していると踏込消毒槽の消毒効果が弱まるので、事前に有機物を除いた後に踏込消毒槽を利用するようにしてください。また、利用頻度の多い畜舎では、毎日踏込消毒槽の消毒液を交換するように心掛けましょう。

大規模農場における農場分割について (全国家畜衛生主任者会議から)

令和4年シーズンの高病原性鳥インフルエンザは大規模農場での発生が多くみられ、防疫対応にあたった自治体の負担に加え、鶏卵の需給にも影響を与える事態となりました。このため国は、大規模農場での発生を想定し、衛生管理区域ごとで作業や管理等を分割することにより、殺処分の対象家畜を限定することを目的とした「農場の分割管理マニュアル」を準備中です。

農場分割の基本的な考え方は、大規模農場での分割後の区域を1農場とみなすため、以下の項目について実施が必要となります。

- ①衛生管理区域の境界を明確にするための防護柵等で敷地を区切る。
 - ②原則として、衛生管理区域毎に作業者を分けるとともに車両や作業者の出入口を衛生管理区域毎に設け、それぞれで消毒等を行う。
 - ③集卵ベルト等、畜舎をまたがる機材は衛生管理区域間で共有しない。
 - ④衛生管理区域毎に衛生管理基準の遵守を行い、定期報告書も衛生管理区域毎に提出すること。
- 具体的な内容については正式にマニュアルが策定されましたらお知らせします。



※ それぞれの出入口で消毒等を実施

新人だより

はじめまして。令和5年4月より東部家畜保健衛生所に配属となりました北所万貴子(きたじよまきこ)と申します。秋田県で生まれ育ち、北海道の酪農学園大学に進学しました。大学卒業後は宮城県の動物病院に勤務し、その後兵庫県淡路島の農業公園で羊やロバ、ウサギなどの小動物や、コアラやカピバラなど展示動物の診療を行っておりました。

今年、香川県への移住と同時に転職を決め、念願叶って以前から興味があった家保での業務に携わることとなりました。

とはいえ、業務内容は未経験なことがほとんどで、周りの方々のご指導の下、少しずつ慣れてきているところです。

香川県は自然豊かで気候がよく、とても住みやすいところだと感じています。県内の観光地を巡ったり、特産品などの県の魅力をもっと知り、香川県の畜産業のさらなる発展に貢献できるよう励んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



はじめまして、令和5年4月より東部家畜保健衛生所病性鑑定室に配属となりました山川雅史(やまかわまさひと)と申します。出身は高松市で、大学進学から30才までは神奈川県で過ごし、その後香川県に戻り、現在に至ります。

新人だよりに掲載させていただいていますが、健康福祉部から人事交流で異動しており、入庁して10年目になります。異動前は、食肉衛生検査所だと畜検査や保健所で食品衛生等を担当していました。私事ですが、昨年12月に子供が生まれたばかりで、家畜保健衛生所の仕事も父親としても1年目の新米で、日々発見があり、刺激を受けています。

これまでにと畜検査で牛豚の検査に携わった経験から、生産段階である畜産関係の業務に興味を持っていました。未経験なことも多く、周りの方々のご指導の下、少しずつ慣れてきているところです。香川県の畜産の発展に貢献できるように業務に励んでまいります。これからよろしくお願いいたします。



<お知らせ>

●第87回香川県畜産共進会

乳用牛(第1部)・肉用種牛(第2部):11月8・9日(水・木)綾川町 香川県家畜市場

肉豚(第3部):10月27・28日(金・土)坂出市 香川県畜産公社

肉牛(第4部):11月29日(水)・12月1日(金)坂出市 坂出食肉地方卸売市場